

企画事業 「環境教育に関する事業」

事業名	「サンゴの海に学ぶ」環境教育セミナー サンゴ礁ウォッチング	
実施期	平成21年10月10日（土）～12日（月）	
担当者	企画指導専門職 黒島 直人	

I 事業の趣旨

サンゴの海を通して、青少年に人間と環境の関わりを考える機会を提供し、持続可能な社会実現に関われるよう環境保全意識の向上を図るとともに、自ら主体的に取り組む機運などを醸成する。サンゴ礁の海としてラムサール条約に登録された慶良間の海に、青少年が直接体験的に触れ合う活動を通して地球規模での環境問題を理解する。また関係機関との連携を通して、体験活動と探求的な活動を結びつけ、課題を深める効果的な展開方法の開発を目指す。

II 事業の概要

1 事業の目的

スノーケリング等によるサンゴ礁の観察や海洋体験を通して自然の素晴らしさや神秘さに触れ、海洋環境の大切さを考える契機とする。



【サンゴ礁に棲む魚の観察】

2 参加対象及び募集人員

高校生・大学生・専門学校生 30人

3 参加状況

男性6名、女性4名

高校生・・・3人

大学生・・・2人

専門学校生等・・・5人

4 事業内容

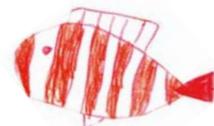
- ① アイスブレーキング
- ② 実技実習「スノーケリング基礎」
- ③ 講義「サンゴの不思議」
- ④ 実習「サンゴ礁ウォッチング1」
- ⑤ 実習「サンゴ礁ウォッチング2」
- ⑥ 講義「沖縄のサンゴ礁の現状と保全への取組」
- ⑦ 講話「沖縄の海と共に生きる」
- ⑧ ワークショップ「今、私たちにできること」



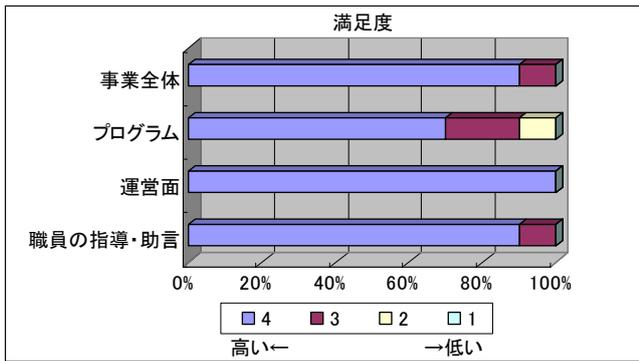
【スノーケリング基礎での様子】

5 実施上の留意事項

- ① 高校生以上の学生がサンゴ礁への興味・関心を高め、理解を深められるプログラムを企画する。
- ② 参加者がサンゴ礁の美しさや素晴らしさに気づく活動や慶良間の海が直面している現状を伝える活動を通して、清ら海を守るという環境保全意識の向上を図るプログラムづくりに取り組む。
- ③ 地元渡嘉敷の方を講師やスタッフとして事業に関わりをもたせ、連携協力体制を更に強化したい。
- ④ スノーケリングによる活動では、基本技術を身につけて安全に観察ができるようにする。
- ⑤ 講師やスタッフの連携を密にして事故の未然防止に努める。



6 アンケート結果



《良かった点》

- 初めてのスノーケリング体験だったが予想以上に綺麗な海だった事が強く印象に残った。
- 楽しく学べた。
- 話を聞いたり、海での体験も多かったから。
- サンゴの生態や現状について詳しくなれた。サンゴについて他の人にも教えてあげたくなった。
- 実習も講義もあり体験と知識が結びつきやすかった。
- 規則正しい生活も送る事ができて非常に良かった
- スノーケリング、講義（3本）共に満足した。
- 海をもっともっと好きになれました。全体を通して初めての体験や初めて聞いた事など多くの事が学べて良かったと思います。
- 少人数で中止も考えた様ですが、参加者にとっては少人数で良かったと思う。

《改善すべき点》

- 少し講義が難しかった。
- もっと海に入りたかった。
- もう少し海洋研修が多くてもいいと思う。
- 時間にもう少しゆとりが欲しかった。体力的にきつかった。



【ボートエントリ】

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- ① 今年度も、サンゴやサンゴ礁の取り巻く現状についての「講義・講演」と「スノーケリング実習」の組み合わせを意図的に組むというプログ

ラムの流れを踏襲し、サンゴの海の多面的な理解を参加者に促した。事業全体に関する高い満足度（90%）を得たことより、今年度もその取り組みは成功した。

- ② スノーケリングプログラムにリーフチェックの手法を取り入れた教材開発により、参加者にサンゴの海の観察ポイントを统一的に教示できるようになり、環境についてより深い「気づき」や「学び」を引き出すことが可能になった。

- ③ 参加者の意見や感想の共有化（分かちあい）の時間を設けて、体験での学びを参加者同士で共有化し深め合うことができた。



【分かちあいの場面から】

2 今後の課題

- ① 当初、参加対象者が中高校生であったが、学校行事などとの重なりがあり、参加者確保が難しくなったので、急ぎよ参加対象者を大学生・専門学校生にも参加可能として実施した。対象者、開催日の再考および広報活動の見直しが必要である。

- ② サンゴの海をととした環境教育の実践に取り組む第一歩として、スノーケリング技術の習得がある。地域の人材を活用したスノーケリング指導者の育成を強力に推し進める必要がある。

- ③ 今回実施した「スノーケリング」プログラムを、利用者参加型の調査研究事業として発展させたい。利用者がサンゴの海を楽しみながら渡嘉志久湾の個体数のデータ収集を行う。その調査データを基に渡嘉敷の海洋環境の現状を訴える、その様な情報発信につなげられないか、想を練り上げたい。



【各講義・講演の様子】